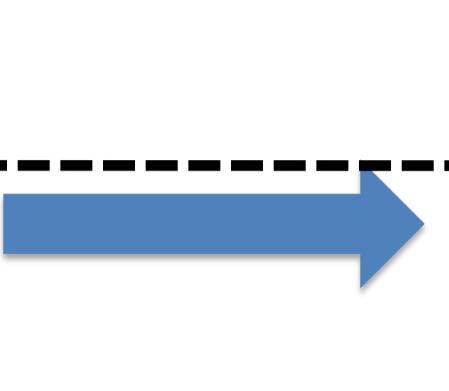
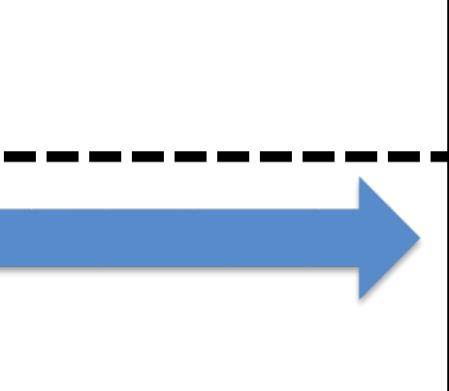
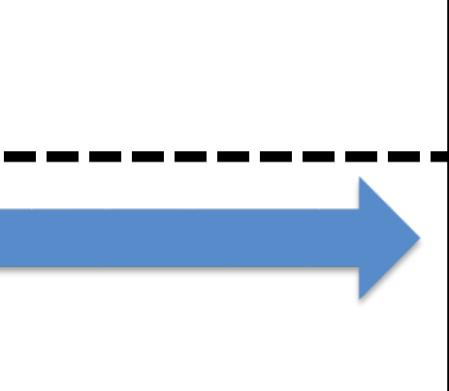
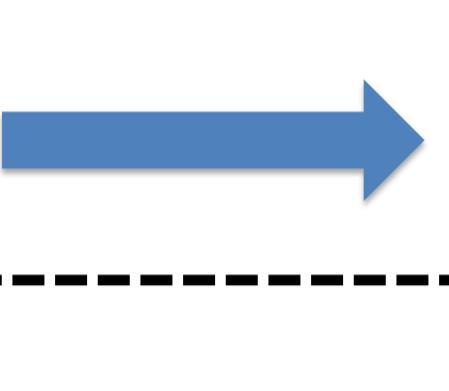
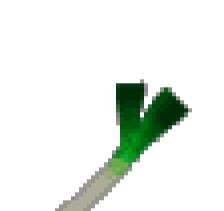
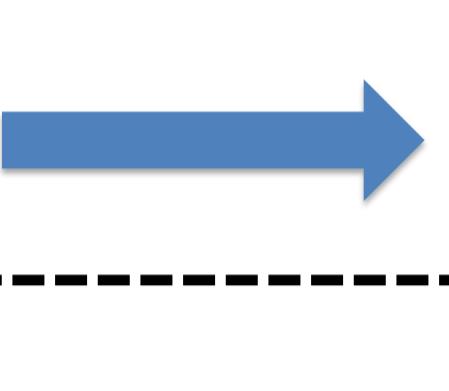
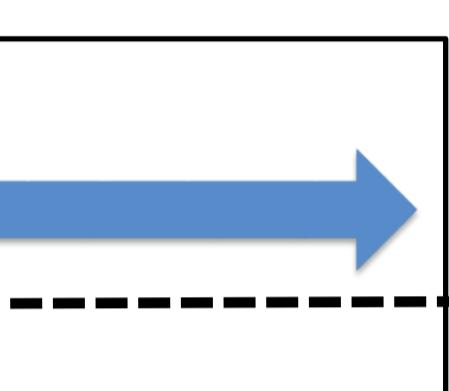
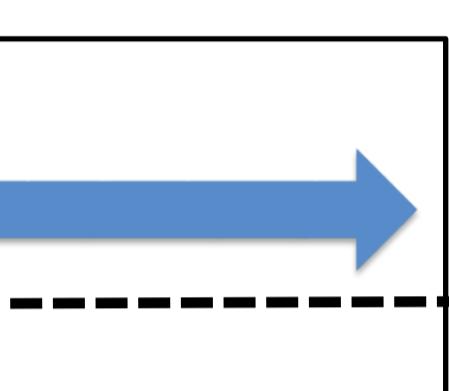
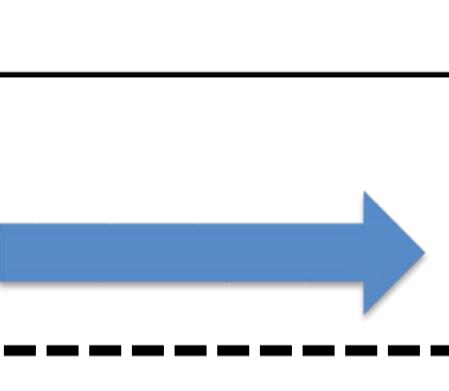
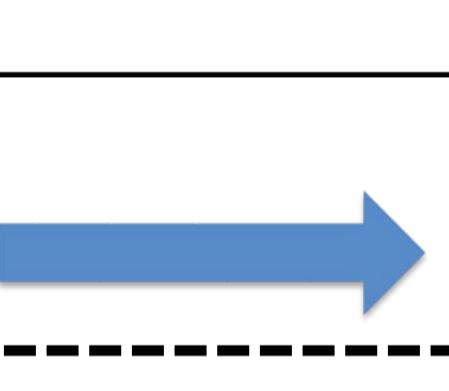
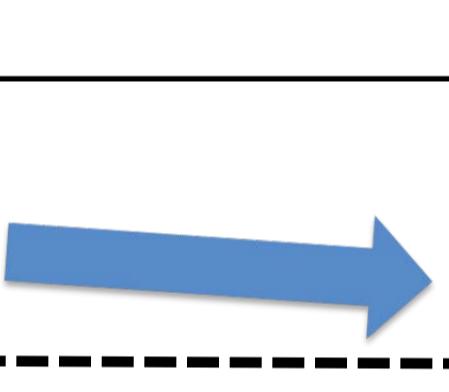
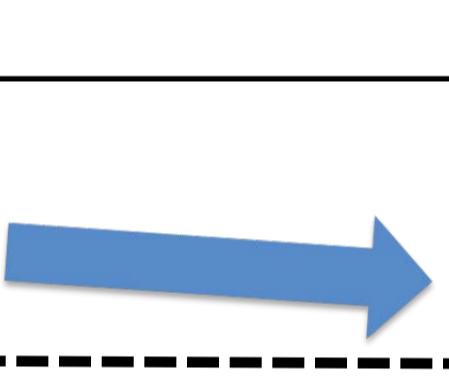
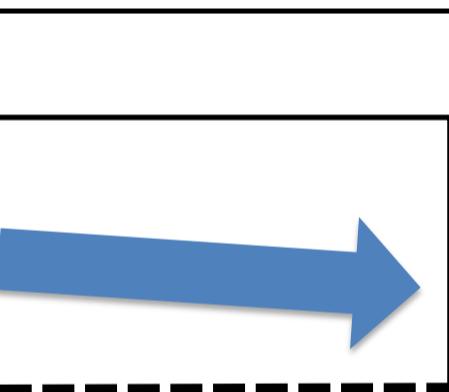
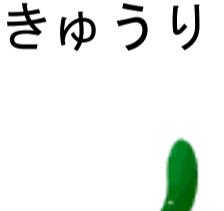
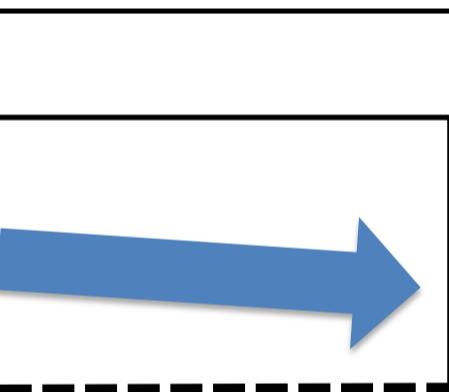
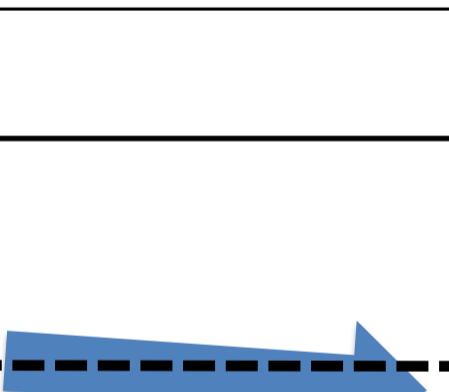
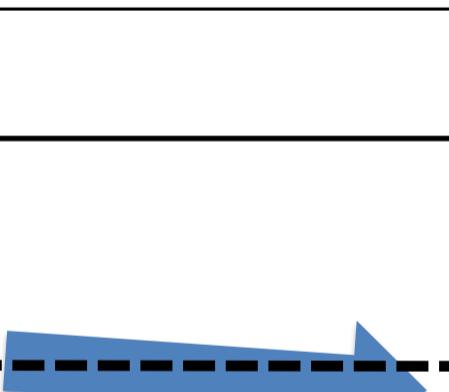
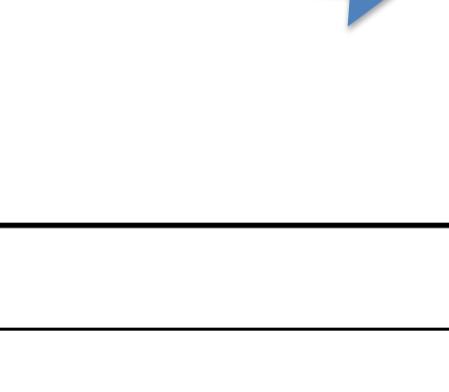
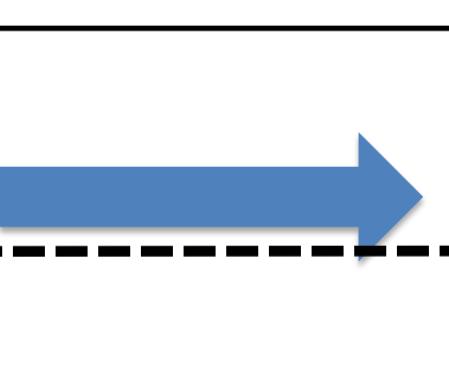
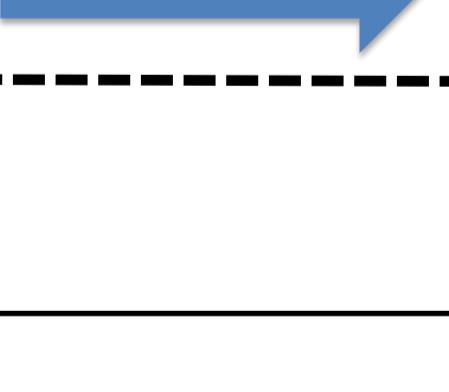
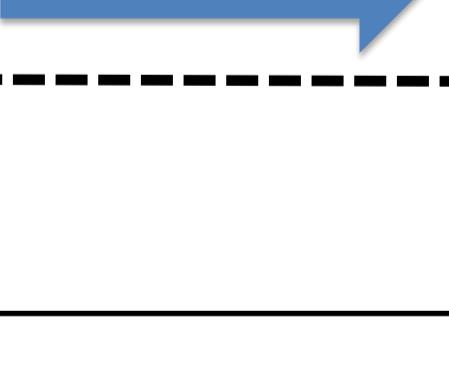
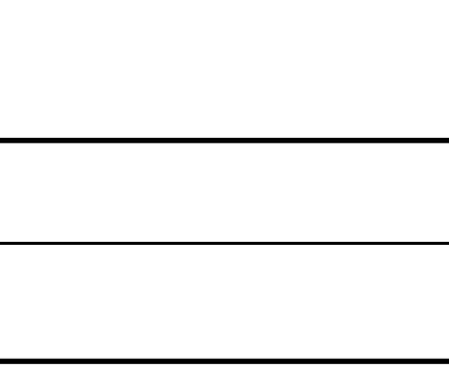
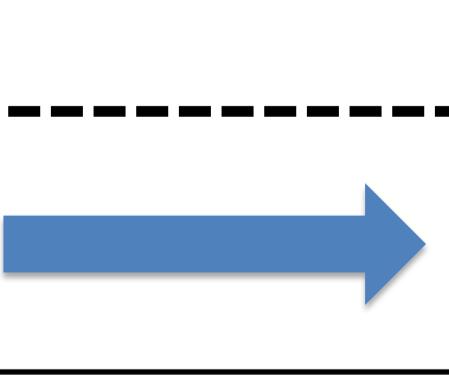


野菜の需給・価格動向レポート（平成29年11月6日版）

1 主要野菜の生産出荷状況

※レポートの読み方については、注意書きを参照してください

種類	10月の価格情報			11月 10月中旬の関東及び近畿ブロックの入荷量 ()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	主産地	生育及び価格の11月中旬までの見通し	「図の見方」 平均価格 現時点の価格水準 平均価格 見通しの価格水準				
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格										
	上旬	中旬	下旬								
葉茎菜類	キャベツ 	74.19 (80%)	59 (66%)	49 (80%)	59	72.93 • 13,730t (122%)	千葉(38), 愛知(25), 茨城(21)		千葉産は、台風21号によるスレや海沿いのほ場で塩害が発生したものの、出荷に大きな影響はないことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。愛知産は、肥大良好で大玉傾向となっていることから、台風22号等の降雨により収穫遅れが発生し、一時的に出荷が平年より少なめとなっているものの、今後は平年より多めに回復する見込み。茨城産は、豊作傾向であるが、台風などの豪雨天の影響で、引き続き平年並みの出荷の見込み。		
		88.91 (70%)	62 (58%)	51 (73%)	65	76.91 • 5,196t (130%)	愛知(57), 茨城(19)		千葉産及び茨城産の出荷は平年並みと見込まれ、愛知産の出荷は多めに回復すると見込まれることから、現在平均を下回っている価格は引き続き平均を下回って推移する見込み。		
	たまねぎ 	93.34 (71%)	66 (71%)	66 (73%)	68	83.77 • 6,906t (76%)	北海道(96)		北海道産は、倉入れ作業もほぼ終了し、貯蔵ものの計画的な出荷となっており、作柄は平年並み以上だったことから、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。		
		93.34 (73%)	68 (75%)	70 (76%)	71	83.77 • 2,954t (84%)	北海道(87), 兵庫(12)		北海道産の出荷はやや多めと見込まれることから、現在平均を下回っている価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。		
	ねぎ (関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ) 	136.25 (205%)	280 (214%)	291 (278%)	379	136.25 • 2,533t (88%)	青森(16), 秋田(15), 茨城(10), 千葉(9)		青森産及び秋田産は、生育は概ね順調で、台風21号及び22号の影響は軽微なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。茨城産は、連続で発生した台風により葉折れや倒伏が散見され、またほ場の含水率が高く収穫が遅れているため、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。千葉産は、台風前の生育は順調だったものの、台風21号の強風被害による葉折れや倒伏が散見されることから、引き続き少なめの出荷の見込み。新潟産は、台風21号による強風で一部のほ場で倒伏がみられるものの、影響は軽微で、生育は概ね順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。		
		467.01 (95%)	444 (72%)	339 (85%)	399	467.01 • 243t (162%)	奈良(20), 徳島(19), 三重(18), 香川(13)		青森産、秋田産及び新潟産の出荷が平年並みと見込まれるもの、茨城産及び千葉産の出荷が、平年より少なめと見込まれ、関東産の出回りが鈍いことから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。		
	はくさい 	56.81 (94%)	53 (80%)	46 (107%)	61	40.32 • 10,656t (123%)	茨城(91)		茨城産は、豊作傾向であるが、台風21号等の影響で一部のほ場で冠水、イタミが散見されるものの、影響は軽微なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。		
		69.44 (74%)	51 (58%)	40 (92%)	64	55.95 • 6,421t (128%)	茨城(66), 長野(16)		茨城産の出荷は平年並みと見込まれるもの、台風被害による入荷減の懸念から、引き続き平均を上回って推移する見込み。		
	ほうれんそう 	385.11 (120%)	462 (104%)	399 (168%)	647	385.11 • 949t (135%)	群馬(38), 茨城(21), 栃木(12)		群馬産は、ハウスは生育が概ね順調なもの、露地作は台風の影響でほ場の含水率が高く生育が進まないことから、引き続き平年より少なめの見込み。茨城産は、10月中旬からの豪雨天や台風による生育不良がみられることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。栃木産は、10月中旬からの豪雨天や台風及びその後の低温による生育不良がみられることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。		
		461.74 (131%)	606 (115%)	530 (156%)	721	461.74 • 340t (118%)	岐阜(48), 徳島(22)		千葉産、茨城産及び栃木産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。		
	レタス (結球) 	158.27 (48%)	75 (44%)	70 (94%)	148	143.63 • 4,826t (133%)	茨城(65), 静岡(8)		茨城産は、豊作傾向で、出荷はピークを迎えておりが、相次ぐ台風の発生による強風や降雨により、一部のほ場で冠水やイタミがみられることから、現在は少なめの出荷となっているものの、天候は回復していることから、今後は平年並みに回復する見込み。		
		152.57 (55%)	84 (51%)	78 (108%)	165	154.61 • 1,572t (152%)	兵庫(38), 茨城(32), 長崎(10), 徳島(8)		茨城産の出荷が平年並みに回復すると見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、平均に近づくものの、西南暖地産の出荷増が見込まれる中旬までは、平均を上回って推移する見込み。		
果菜類	きゅうり 	289.03 (75%)	218 (79%)	228 (207%)	597	289.03 • 3,609t (97%)	埼玉(30), 群馬(24), 宮崎(15)		埼玉産は、10月中旬以降の豪雨天や相次ぐ台風発生による日照不足により、引き続き平年より少なめの見込み。群馬産は、10月中旬以降の豪雨天により生育不良がみられ、現在は少なめの出荷となっているものの、天候は回復していることから、今後は平年並みに回復の見込み。宮崎産は、生育は順調で、10月中旬以降の豪雨天及び台風の影響は軽微で、生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。		
		298.96 (80%)	238 (80%)	240 (221%)	661	298.96 • 968t (110%)	宮崎(45), 高知(22), 群馬(15), 大阪(9)		宮崎産及び群馬産の出荷が、平年並みまたは平年並みに回復すると見込まれるもの、埼玉産の出荷は平年より少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、平均に近づくものの、引き続き平均を上回って推移する見込み。		
	トマト (大玉) 	347.41 (100%)	346 (104%)	360 (97%)	336	347.41 • 3,842t (105%)	熊本(37), 愛知(17), 千葉(12)		熊本産は、10月中旬以降の豪雨天により生育遅れがみられるものの、天候が回復していることから、現在やや少なめの出荷は、今後は平年並みに回復の見込み。愛知産は、生育は概ね順調で、10月中旬以降の豪雨天及び台風の影響は軽微であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。千葉産は、生育は概ね順調であることから、10月中旬以降の豪雨天により着色遅れがみられるものの、引き続き平年並みの出荷の見込み。		
		371.67 (99%)	369 (102%)	381 (97%)	362	371.67 • 1,375t (116%)	熊本(67)		熊本産、愛知産及び千葉産の出荷が平年並みに回復または平年並みと見込まれることから、現在平均並みの価格は、今後は平均を下回って推移する見込み。		
	なす 	301.00 (79%)	237 (74%)	221 (117%)	353	301.00 • 1,880t (122%)	高知(62), 福岡(13)		高知産は、10月中旬の豪雨天により、やや生育遅れがみられるものの、台風以降好天が続いていることから、現在やや少なめの出荷は、今後は平年並みに回復する見込み。福岡産は、生育は概ね順調で、台風21号の影響は軽微なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。		
		263.21 (96%)	252 (83%)	217 (142%)	373	263.21 • 681t (118%)	高知(41), 熊本(23), 福岡(16), 岡山(10)		高知産及び福岡産の出荷は平年並みに回復または平年並みと見込まれるもの、10月中下旬の天候不順により、出荷終盤の関東産の切り上がりが早まると見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。		
	ピーマン 	263.58 (104%)	274 (99%)	262 (139%)	366	378.83 • 1,030t (108%)	茨城(54), 宮崎(21)		茨城産は、10月の豪雨天の影響で花落ちが多いことに加え、台風21号により抑制制作に冠水被害がみられ、切り上がりが早まる可能性があることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。宮崎産は、9月の台風18号以降の豪雨天等で、生育不良がみられることがあり、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。高知産は、中旬にかけて一時的に出荷が増えるものの、10月の豪雨天の影響で、肥大遅れが発生していることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。		
		296.27 (102%)	303 (96%)	285 (121%)	359	371.29 • 443t (124%)	宮崎(32), 高知(23), 茨城(13), 鹿児島(12)		茨城産、宮崎産及び高知産の出荷は平年より少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。		
根菜類	だいこん 	67.55 (107%)	72 (90%)	61 (132%)	89	67.55 • 5,031t (114%)	千葉(64), 神奈川(17)		千葉産は、豊作傾向であるが、一部のほ場で、台風21号による塩害等の発生がみられることがあることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。神奈川産は、台風21号による塩害が発生し、正品率の低下が懸念されることがあることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。		
		76.48 (89%)	68 (90%)	69 (126%)	96	76.48 • 2,379t (112%)	石川(21), 長崎(18), 和歌山(13), 徳島(11), 鹿児島(10)		千葉産の出荷が引き続き平年並みと見込まれるもの、神奈川産の出荷が引き続き平年より少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。		
	にんじん 	123.08 (67%)	85 (56%)	78 (68%)	84	105.86 • 5,191t (106%)	千葉(54), 北海道(25)		千葉産は、豊作傾向であるが、台風21号による一部ほ場の冠水により、収穫遅れが発生していることから、現在平年よりやや少なめの出荷は、今後は平年より少なめの見込み。北海道産は、出荷終盤を迎えることから、引き続き多めの出荷の見込み。		
		123.11 (67%)	82 (56%)	70 (68%)	84	104.49 • 1,979t (108%)	北海道(41), 長崎(31), 千葉(8)		千葉産の出荷は少なめと見込まれるもの、北海道産の出荷は多めと見込まれることから、現在平均を下回っている価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。		

注：1 平均価格は、過去6カ年（平成20～25年）の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均（消費税は除く）で、保証基準額の算定の基となる価格。
 2 旬別平均販売価額の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額（平均価格の90%）を下回るもの（消費税は除く）であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
 3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
 4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。（ ）内は入荷シェアで平成28年実績である。
 5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聞き取りをもとに機構が作成したもの。

1 主要野菜の生産出荷状況

種類	10月の価格情報			11月 10月中旬の関東及び近畿ブロックの入荷量 () 内は、本年と過去3カ年平均値との比率	主産地	生育及び価格の11月中旬までの見通し				
	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額					「図の見方」 平均価格 → 見通しの価格水準 現時点の価格水準 ← 平均価格				
	上旬	中旬	下旬			平均価格(点線)は、レポート期間中に変動する場合があります。				
いも類	さといも	220.97 (119%)	263 (124%)	274 (121%)	268 220.97 + 436t (79%)	埼玉(61), 千葉(12)		埼玉産は、10月中下旬の曇雨天の影響で、肥大が遅れていることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。千葉産は、10月下旬の長雨で肥大が進まず小玉傾向となっていることから、現在は少なめの出荷となっているものの、今後は天候次第ではあるが、平年並みの出荷に回復する見込み。		
	ばれいしょ	217.56 (124%)	269 (134%)	291 (154%)	334 217.56 + 115t (86%)	愛媛(54), 福井(16)		千葉産の出荷が平年並みに回復すると見込まれるもの、埼玉産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。		
	さといも	96.99 (94%)	92 (92%)	89 (91%)	88 96.99 + 4,027t (96%)	北海道(98)		北海道産は、貯蔵ものの計画的な出荷となっており、大玉は少ないものの、作柄は良好なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。		
	ばれいしょ	96.99 (86%)	83 (83%)	81 (80%)	85 96.99 + 1,550t (94%)	北海道(95)		北海道産の出荷は、平年並みと見込まれることから、現在平均を下回っている価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。		

注 : 1 平均価格は、過去6カ年(平成20~25年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格。
2 旬別平均販売価額の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成28年実績である。
5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したもの。

1 主要野菜の生産出荷状況(特定野菜)

種類	10月の価格情報			11月 10月中旬の東京都及び大阪市場の入荷量 () 内は、本年と過去3カ年平均値との比率	主産地	生育及び価格の11月中旬までの見通し				
	東京都・大阪市場の旬別価格					「図の見方」 平均価格 → 見通しの価格水準 現時点の価格水準 ← 平均価格				
	上旬	中旬	下旬			平均価格(点線)は、レポート期間中に変動する場合があります。				
洋菜類	ブロッコリー	408.61 (103%)	421 (88%)	359 (119%)	485 302.07 + 625t (135%)	埼玉(25), 香川(16), 愛知(16)		埼玉産は、台風21号による強風で、スレやイタミなどが発生し、現在は少なめの出荷となっているものの、今後は天候次第ではあるが、平年並みに回復する見込み。香川産は、8月以降の相次ぐ台風の発生により、一部ほ場で冠水がみられることがあり、引続き平年より少なめの出荷の見込み。愛知産は、豊作傾向であるが、台風21号による強風で倒れ、傷などが発生していることから、引き続きやや少なめの出荷の見込み。		
		424.92 (112%)	478 (97%)	413 (115%)	487 369.86 + 178t (130%)	徳島(25), 鳥取(18), 北海道(15), 米国(14)		埼玉産の出荷は平年並みに回復すると見込まれるもの、香川産及び愛知産の出荷は引き続きやや少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。		
根菜類	ごぼう	252.90 (126%)	318 (120%)	304 (113%)	287 247.06 + 243t (90%)	青森(68), 茨城(13)		青森産は、作柄は平年並みだが、8月の曇天による肥大遅れに加え、長いもの収穫等、他の農作業の遅れとの競合も影響し、引続き平年より少なめの出荷の見込み。茨城産は、豊作傾向であるが、相次ぐ台風の発生により、ほ場の含水率が高く、収穫が遅れていることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。		
		173.20 (117%)	202 (125%)	217 (115%)	200 179.28 + 165t (85%)	青森(36), 茨城(30)		青森産及び茨城産の出荷が少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。		
果菜類	かぼちゃ	135.51 (106%)	143 (108%)	147 (105%)	142 166.05 + 1,329t (131%)	北海道(73)		北海道産は、貯蔵物の出荷で、作柄は良好なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。		
		125.57 (100%)	125 (104%)	130 (96%)	121 144.25 + 489t (113%)	北海道(53), NZ(19)		北海道産の出荷は引き続き平年並みと見込まれることから、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。		

注 : 1 平均価格は、過去5カ年(平成24~28年)の東京都及び大阪市中央卸売市場の価格。
2 旬別価格は、上段は東京都中央卸売市場、下段は大阪市中央卸売市場であり、単位は円/kgである。
3 旬別価格の赤字及び青の背景は、平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は平均価格を80%を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成28年実績である。

2 野菜の輸入動向 一 野菜の輸出入数量と主な生鮮野菜の輸出入について 一

○輸入について	野菜の輸入数量			野菜の輸出数量		
	野菜全体の輸入量(平成29年9月)			野菜全体の輸出量(平成29年9月)		
貿易統計によると、平成29年9月の生鮮野菜の輸入量は、5万3千トン(前年同月比71%)であった。また、輸入量の多い加工野菜は14万8千トン(同108%)であり、野菜全体では、20万2千トン(同95%)とやや減少した。	野菜全体の輸入量(平成29年9月)	(単位:トン、%)	野菜全体の輸出量(平成29年9月)	(単位:トン、%)		
このうち、中国産の輸入数量は合計で10万9千トン(同87%)と、輸入量の54%を占めた。	区分	平成27年 前年比	平成28年 前年比	平成29年9月 前年同月比	平成29年1~9月 前年同期比	
なお、主な生鮮野菜のうち、特にキャベツの輸入量が大幅に増加しているのは、今年に入ってきたからの国産の高値及び品薄感を受け、手配を行ったことから、増加したものとみられる。	生鮮野菜	826,845 93	862,416 104	53,298 71	663,418 106	
○輸出について	加工野菜	1,752,337 98	1,768,892 101	148,222 108	1,413,774 108	
9月の輸出量は、野菜全体では3068トンと、前年同月を大幅に上回った(前年同月比143%)。生鮮野菜が1727トン(同164%)、加工野菜が1341トン(同123%)と、どちらも前年同月を大幅に上回った。	野菜合計	2,579,182 97	2,631,308 102	201,520 95	2,077,192 107	
キャベツ等(ブロッコリー、はくさいを含む)については、台湾への主たる輸出国の天候不順により、国産の引合いが引き続き強いことから、増加したとみられる。	うち中国産野菜合計	1,355,491 96	1,365,785 101	109,052 87	1,044,446 107	
	中国産シェア	53	52	54	50	
野菜の輸入動向	輸入合計	1位 前年比	2位 前年比	3位 前年比	輸出合計	1位 前年比
主な生鮮野菜の輸入先(平成29年9月)	国名	数量	国名	数量	国名	数量
(単位:トン、%)						
野菜の輸出先(平成29年9月)	国名	数量	国名	数量	国名	数量
(単位:トン、%)						
資料:農畜産業振興機構「ベジ探」(原資料:財務省「貿易統計」) ※四捨五入の関係上、合計と各計の数字は一致しないことがあります。 ※平成29年1月以降、関税法の統計品目番号の変更により、「にんじん及びかぶ」が「にんじん」と「かぶ」に分離・集計されています。	主な生鮮野菜の輸出先(平成29年9月)	(単位:トン、%)	野菜の輸出先(平成29年9月)	(単位:トン、%)	野菜の輸出先(平成29年9月)	(単位:トン、%)
同(平成28年9月)	輸出合計	1位 前年比	2位 前年比	3位 前年比	輸出合計	1位 前年比
(単位:トン)	国名	数量	国名	数量	国名	数量
同(平成27年9月)	輸出合計	1位 前年比	2位 前年比	3位 前年比	輸出合計	1位 前年比
(単位:トン)	国名	数量	国名	数量	国名	数量

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 安藤、松岡、植村 TEL03-3583-9448、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。
◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメールマガジンでお知らせしますので、ご希望の方は当機構のホームページのトップ画面、メールマガジンから登録してください。
★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.html に掲載しています。
※無断転載禁ず。レポートに記載された情報をご利用になったことにより生じたかかる損害に関して、当機構は一切の責任を負いません。